

島根県立男女共同参画センター（愛称「あすてらす」）は 開館10周年を迎えました

対談

しまねの女性・男性に期待すること ～10年の振り返りとこれからに向けて～

島根県知事 溝口善兵衛 & (財)しまね女性センター理事長 下森華子



1 しまねの女性の思いが 結実してできた「あすてらす」

下森 おかげさまで、県立男女共同参画センター「あすてらす」は、この4月で開館から満10年を迎えることができました。顧みますと、平成11年の開館以前から、県内の女性たちには長年に渡って男女共同参画推進のための総合的な拠点施設が必要との思いが積み重なっていましたから、開館の喜びもひとしおでした。拠点整備の実現に向けて、県内の各女性団体で構成する「しまね女性会議」が中心となって、設立のための寄付集めに奔走するなど、当時のこうした女性たちのたぎるような情熱と行動力は、今でも鮮やかに脳裏に浮かぶほどです。

溝口 女性の地位向上や男女共同参画に向けて、本格的に活動するためには、多くの女性の方々が一緒に集まって考え、議論し、行動する「場」が必要だという強い思いが、「あすてらす」創設を推進する大きなエネルギーになったんですね。

下森 当時は今よりもずっと女性の地位が低く、男性中心社会でしたが、多くの自治体ではセンターの設置が進みつつありました。そこに県内の女性たちの声があがって、県も、男女共同参画施策を実践し展開し、県民が男女共同参画に主体的に取り組む「場」の必要性を感じ、「あすてらす」という拠点を整備してくれたのだと思います。

施設の設計や設備、様々な機能についても、県民の意見を取り入れて、バリアフリーの安全面や環境に配慮したものとなり、本当に「私たちの拠点」だとも思いを強くしました。

溝口 私が知事に就任して、女性団体などの方々とお話しして感じたことは、思っていた以上に島根県では男女共同参画への取り組みが進められているなあ、ということでした。「あすてらす」創設への皆さんの思い、そして開館後は「あすてらす」を拠点として活動の成果をあげて行こうという、皆さんの強い決意のなせるわざなのだとということがよく分かりました。

2 開館以来 「あすてらす」の果たしてきた役割

下森 「あすてらす」が開館した年には、国が「男女共同参画社会基本法」を施行し、男女共同参画推進に向けた様々な取り組みを展開しやすい素地が整いました。

それから10年、「あすてらす」は、県民の皆さんの男女共同参画への理解を深め、人材を育成して女性の社会参画を促す、という役割を担って、各団体との連携の下、多くの事業を行ってまいりました。

いくつか紹介いたしますと、毎年、男女共同参画セミナーを開催し、多くの県民の皆さんにおいでいただいております。また、特定テーマに沿って深く学びたいという方に向けて、テーマ別の連続講座やこちらから出かけていく「お届け講

座」なども開催しています。参加された皆さんからは男女共同参画について正しい理解が得られた、男は仕事女は家庭といった固定的役割分担に縛られていた自分に気づいた、などの感想が寄せられています。とりわけ、平成11年から4年間にわたり開催した「しまね女性塾」は、学習意欲を持った女性を公募し、特定の行政テーマを選定して一年にわたり研修やフィールドワークを重ね、大学の先生の助言を得ながら提言をまとめて知事に提案するという研修でした。参加された皆さんは、現在、地域活動の中心的存在として活躍されています。さらに、県が平成15年度から委嘱を始めた男女共同参画サポーターへの研修や情報提供を通じ人材育成を進めてきましたが、近年、寸劇等による啓発事業に取り組むなど主体的な活動を進めるグループが見られ、うれしく思っています。

溝口 例えば、県では審議会等の女性委員比率の向上に取り組んでいますが、「あすてらす」での女性人材育成により、審議会等で活動できる人や活動してみたいという人が増えたことによっていますね。また、女性委員比率の向上にしても、女性管理職の増加にしても、呼びかけに対して少なくともそれが必要との認識は、男女や年齢を問わず、共通して皆が持つようになってきていると感じます。「男女共同参画の理解の促進」という面でも着実に変化が起こってきていると思えますね。

下森 県の審議会等の女性委員比率でいえば、10.6% (H11)が42.4% (H20)になるなど、この10年での取り組みの成果が顕著に現れていますね。

他にも、人材育成の取り組みの成果として、企画力やプレゼンテーション能力が身に付いたおかげで地域の活性化を目指した地産地消活動に結びついたという声も聞きました。

溝口 県職員の場合は、女性管理職比率の向上は若干、遅れていました。これは、以前は女性職員自体が少なかったことも関連しているのですが、いずれにせよ政策として意識的に取り組まなければならないものです。私自身はもとより、各部局の幹部や人事を担当する者が率先して取り組むよう指示しております。

また、「関係団体との連携」という面でいえば、男女共同参画サポーターの皆さんにより一層活躍していただくためにも、県のみならず市町村での取り組みにも期待しているところです。

下森 男女共同参画サポーターの皆さんの主体的な活躍には、目をみはるものがありますが、活動が熱心なサポーターさんは、やはり市町村との連携がうまくいっていると感じます。県からは、市町村が男女共同参画の様々な取り組みを進めるためのより所として、「男女共同参画計画」の策定を呼びかけていますが、「あすてらす」では、この計画策定に向けた助言や職員派遣、資料提供などの支援も事業として行って、策定率の向上に結びついています。

3 課題と今後の展望 ～「あすてらす」の使命とは

下森 こうして10年を振り返ると、男女共同参画はやっとここまで進んできたという思いもありますが、まだ十分ではない、より一層の取り組みが必要と感じるところもあります。

例えば、男女共同参画の意識が県内の隅々まで浸透しているかといえば、地理的な条件では東西に長く島々も擁する島根県ですから、開館以来行ってきた「お届け講座」のようにこちらから出かけていくような事業や地道な啓発・広報活動に継続して力を注いでいかねばなりません。また、働きかけの対象としては、今後、より一層「企業」に向けた取り組みが大切になるのではないかと考えています。

溝口 人間の活動を活動の「場」に分けて見ますと、「家庭」では子育てなどで、夫と妻と一緒に行動するように段々なってきました。また、「地域」における活動でも、女性の力に頼らなくては、立ち行かないということは誰もが認める現実になってきています。例えば、高齢化の進んだ中山間地域では、地産地消の活動をするにしても「地域」の文化活動を行うにしても、女性の活躍あってのものですし、こうした地域では、「家庭」内での諸々の活動も男女で協力し合わないと言われていけません。そういう意味では、中山間地の方がむしろ男女共同参画は必要に迫られていて受け入れられやすいと言えるかもしれません。一方、都市部においても若い世代を中心に「家庭」での男女の協力が随分進んできているように思います。これは、「学校」という場での教育の成果もあるでしょうし、共働きが増えて夫婦で協力し合わないとお互いに困るという現実があるからでしょう。

これらに比べると、「企業」という場では、女性の活躍の場はまだ限られているようですね。

下森 「不景気でそこまで手が回らない。」という経営者の方々の声も耳にしますが、本当は企業だって女性の活躍を必要としているはず。そのためにも、女性も男性も仕事と家庭・地域を両立させながら安心して働き続けられるような職場になってほしい、という思いを強くしています。

溝口 やはり、「企業」での実質的な男女共同参画は、意思決定の重要な過程により多くの女性が入っていかなければ進まないものです。経営者・管理職等への啓発や働き続けやすい職場づくり等に向けて、「あすてらす」の果たす役割は大きいと思います。

もちろん、「企業」向けのみならず、「あすてらす」では引き続き様々な分野・方法で、男女共同参画社会の実現のための取り組みを進めていただくことが期待されています。この10年でようやく緒につき広がりつつある男女共同参画の動きを、より確かなものにしていくために、県としては、今後も「あすてらす」の活動に一層の支援をしていきたいと思っています。